

人々の支えに感謝をしながら 希望を胸に踏み出す一歩。

祝

令和2年 はたちのつどい



1月12日「令和2年はたちのつどい」が社会福祉センターで行われ、新成人45人が新たな門出を祝いました。町内で今年、大人の仲間入りを果たした新成人は66人です（平成11年4月2日から平成12年4月1日までに生まれた方）。

川島教育長は「重要な人になるのは、すてきなことだけれど、すてきな人になるのは、もっと重要である」というノストラダムスの言葉を送り、「目標を持ち続け、自らの創意と工夫、そして旺盛な行動力で夢の実現に向けて挑戦し続ける、そんなすてきな大人になってほしい」と式辞を述べました。

榎町長は「社会に出て自分の夢や希望をつかむためには、自分で行動すること、チャレンジすることが必要。自分の可能性を信じて積極的に挑戦してください」、富田忠行町議会議長は「今後直面するさまざまな壁を乗り越えて、心豊かな夢あふれる人生を送ってほしい」と祝辞を述べました。

新成人を代表し、田中涼真さんと平野唯奈さんが「はたちの誓い」を読み上げ、成人としての新たな気持ちを支えました。

式典の最後は、潮さい合唱団と白糠手話の会が、それぞれお祝いの歌を披露し式に花を添えました。

